

令和3年度 卒業式 式辞

記録的降雪に見舞われた札幌にも、温かい日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じられるようになりました。今日の良き日に、札幌啓北商業高等学校を卒業する226名の皆さん、卒業おめでとうございます。学校を代表して、こころよりお祝いをいたします。

皆さんは、初めてこの校舎に足を踏み入れた日のことを覚えていますか。真新しい制服に身を包み、様々な中学校から集まった仲間達の中で、不安で一杯だったと思います。

しかし、その一方で、新しい高校生活の期待にワクワクしていたと思います。

あれから3年、多くの仲間たちと歩んできた高校生活も、いま終わりを告げようとしています。

また、新しい扉を開けるときです。

以前、校長つうしんの中で「人はなぜ働くのか」について書いたことがあります。世の中にはたくさんの仕事があり、その仕事は誰かの願いでできています。その願いを叶えることが働くということです。

願いを叶え、その対価を得る。達成感と自己有用感があってこそ、人は幸せを感じ、働こうと考えるのです。

生きていくため、食べるために人は働きますが、なぜ働くのか、何のために働くのかを考え、働いて生きることに喜びを感じてください。

これからの社会は予測困難な社会だと言われています。AIの急速な発達や、現実空間と仮想空間との高度な融合をもとに、経済発展と社会的課題の解決が図られた人間中心の社会が訪れます。

新たな社会の中で生きていく皆さんは、啓北商業高校で身に付けた様々な能力(スキル)を活用し、新たな価値を見出していくことが求められます。

何をして生きるのか、どう生きるのか、何のために生きるのか。生き方とあり方を考えてください。

常に、身の回りの事柄に「なぜ」と問い、その答えを探してください。

皆さんも知っているように、1か月後の4月1日より民法が改正され、成年年齢が18歳に引き下げられます。つまり、皆さんは来月より未成年ではなく成年として扱われます。これまでは親の承諾が必要だったことも、自分で考え決定することができるようになります。その代わりに、大人として全ての責任を負うことになります。

今までは未成年として保護されていましたが、これからは一人前の社会人として扱われます。言動に責任が求められます。権利の行使には義務が伴います。そのことを忘れないでください。

しかし、たとえ成人であっても、人は一人で生きていくことはできません。必ず誰かの世話になっています。

世話を受けたとき、それに感謝し、相手に恩を返すだけでなく、その「有難さ」を他の誰かにも与えてください。「情けは人の為ならず」。相手にかけての情けは、いつしか自分に返ってきます。

皆さんはこの啓北商業高校で、多くの人と関わって暮らしてきました。その間、様々な人から手が差し伸べられたと思います。これからは、その手をほかの誰かに差し伸べてください。

出会いがあれば別れがあります。昨日と同じ今日が続く安心感、今いる場所に留まることの心地よさ、それは誰もが知っています。しかし、新しい世界への期待と高揚感、旅立つ際の不安とないまぜになった清々しさも知っているはずです。

「ライク・ア・ローリングストーン」転がる石に苔は生えません。心の中にある自分を磨き続け、常に新しい気持ちをもってチャレンジを続けてください。

最後になりましたが、本日ご来場の保護者の皆様、お子さまのご卒業誠におめでとうございます。この子たちはこの3年間で大きく成長しました。それもひとえに、ご家族の献身的な支えがあったからです。啓北商業高校を代表して感謝申し上げます。ありがとうございます。

卒業生の皆さん、いよいよお別れです。皆さんの人生は始まったばかりです。社会にでてからも、校歌にある啓北商業高校生の象徴である「マーキュリー」の翼を担う若人として、未来に向かって大きく羽ばたいてください。期待しています。